

### 第3 施策の現状と課題

#### 【学校体育の充実】

#### 1 学校体育指導の充実

##### (1) 体育担当教員等の資質の向上

学校体育では、児童生徒の心身の健全な発達を促すとともに、生涯にわたりスポーツに親しむことのできる能力や態度の育成が重視されています。

現在、教職員現職教育計画に基づき、新学習指導要領の趣旨徹底を図るための教育課程講習会や学校体育実技指導者講習会等を開催するとともに、小学校の水泳の授業に民間の優れた指導者を派遣する事業や各種研究推進校の指定による実践研究を行うなど、指導者の資質の向上に努めています。

しかしながら、本県児童生徒の体力・運動能力を10年前と比較すると、体力については特に柔軟性の低下が著しく、年齢が高まるにつれて他の種目とも低下傾向がみられます。また、運動能力についても各年齢段階で総じて低い状況にあります（図1-1、図1-2、図1-3）。

そのため、各学校においては、児童生徒一人ひとりの特性を生かす個人差に応じた指導や発育・発達段階に応じて体力・運動能力の向上を図る指導の充実が強く求められています。

体力・運動能力の比較

(昭和56年度の本県平均値を100としたときの平成3年度の指数)

図1-1 10～11歳

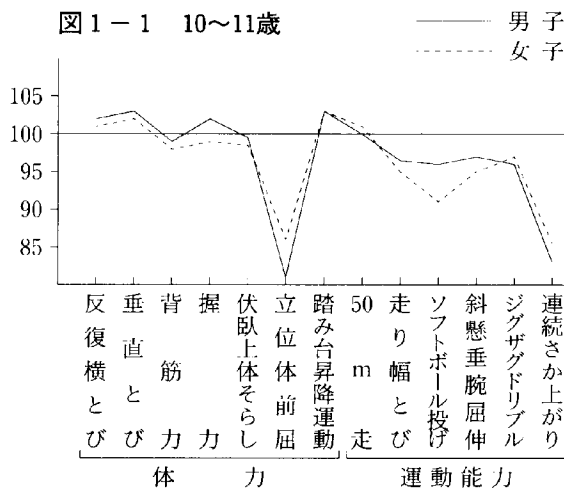


図1-2 12～14歳

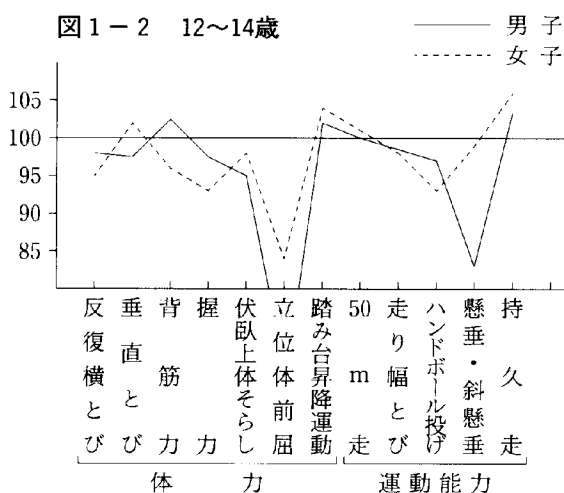
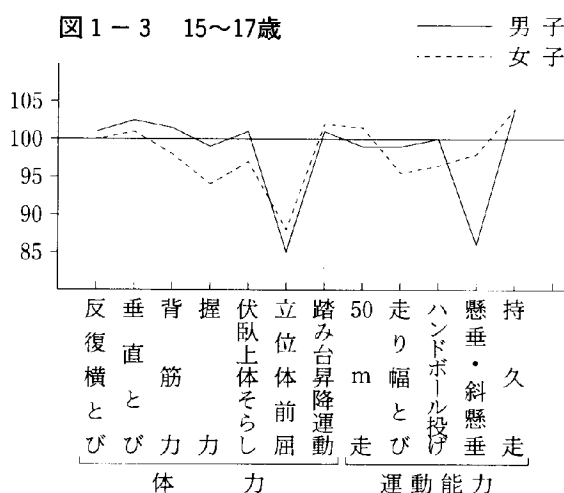


図1-3 15～17歳



(資料)「平成3年度福島県児童生徒の体格、体力、運動能力の現状」

したがって、今後は、各学校における体育に関する指導がより適切に行われるよう、各種講習会や研修会を一層充実させるとともに、体力・運動能力の向上策について指導事例集等の作成を行い、その活用の促進を図る必要があります。